よりよいこれからの生き方をお考えの方に

ゆかり通信

Vol.123
秋麗号
2024年10月15日
この冊子はエデンの園ゆかり会
会員の方に年4回お届けしています。

社会福祉法人 聖隷福祉事業団 高齢者公益事業部 エデンの園「ゆかり会」情報誌

人 interview

横浜エデンの園の進化する医療

通院せずに健康維持オンライン診療スタート

聖隷横浜病院 院長補佐 波多野 孝史

進化する介護

家賃（入居一時金）改定に関するお知らせ

「明日見らいふ南大沢」をご紹介します

人 interview

ON LINE

横浜エデンの園の進化する医療

通院せずに健康維持オンライン診療スタート

2024年6月から横浜エデンの園では、隣接する聖隷横浜病院の泌尿器科とのオンライン診療を開始しました。オンライン診療とは何か?そのメリットは?など、導入を進めた波多野医師に話を伺いました。

波多野 孝史
HATANO TAKASHI
医師(61歳)
聖隷横浜病院院長補佐
医療の質管理室室長
泌尿器科部長

コロナ禍で広まった診療体系 全ての診療をオンラインで完結

聖隷横浜病院の泌尿器科でオンライン診療を始めたのは、コロナ禍の2020年12月です。外出禁止や感染リスクに対応できる診療として、厚生労働省や神奈川県も積極的に導入を勧めていました。オンライン診療はビデオ会議システムを利用し、予約から受診、検査、投薬、支払い、薬をもらうまで、自宅に居ながら全てを完結できる診療体系です。通常の保険診療費に加え、システム使用料が別途500円必要ですが、私はメリットの方が大きいと考えていました。

移動、待ち時間、感染リスク… 対面より患者さんの負担を軽減

対面診療との違いを患者さんの目線に立って考えてみましょう。まず、家から病院まで行く必要がありません。移動の時間はもちろん、公共機関を利用する際は感染のリスクがあり、特にご高齢の方は転倒も危惧されます。待合室で待つ必要も、診療が終わってから会計、薬をもらうまでの時間もありません。患者さんにとって、時間的、身体的、経済的負担が少ないのがオンライン診療なのです。

ご家族や職員も参加できる 見える生活環境から好治療に

もう一つの大きなメリットは、ご家族や職員の話や、映像を介して生活環境が見えることで、より適切なアドバイスができることです。ビデオ通話ですから複数の方と同時に情報を共有でき、患者さんが上手く説明できない時は代弁いただけます。また、実際に生活している様子がわかるので、ベッドの位置を変えたり、介護ケアを見直すことが病状改善につながるケースも多いのです。

気軽に受診し、早期発見 触診や検査が必要な時は対面に

現在、当院の泌尿器科で可能なオンライン診療は、「尿の出が悪い」「夜間の尿が近い」「尿漏れがある」などの症状です。排尿時の痛み、尿が出ないなどの症状は、検査や対面での診療が必要になります。排尿の悩みは、病院に行くべきか判断に迷う方が多いですが、そのまま放置してはいけません。まずはオンライン診療で対面診療が必要か判断し、大したことはないと思っていたことが、重病の初期症状という場合もあります。早期受診が早期発見に、健康維持につながるのです。

同意書やデジタル機器の壁 園の職員が強力サポート

横浜エデンの園とオンライン診療を始めたのは、ある大雨の日に来院された患者さんがきっかけでした。「こんな日は予約変更を」と提案すると、「薬が切れてしまう」とのこと。オンライン診療を勧めましたが、スマートフォンは使えない。その時、付き添いの園の職員が「園のタブレットでできます」と言ってくれたのです。オンライン診療には同意書の記入とデジタル機器の操作が必須で、それが高齢者にとって壁になります。横浜エデンの園の職員は、ご入居者にわかりやすく説明し、ビデオ通話のサポートをしてくれるので、思っていた以上にスムーズに診療ができています。

画面を通じ「これは楽だわ」 病院との距離は関係ない

横浜エデンの園と聖隷横浜病院は目と鼻の先。当初はオンライン診療の必要性を意識していませんでした。しかし、画面越しに「これは楽だわ」と喜ぶ患者さんの笑顔を見て、「これは必要だ」と確信しました。猛暑や台風はもちろん、短い移動でも転倒リスクは伴います。外出のために着替えたり、受診の準備をしたり、どんなに近くても、患者さんの負担は思った以上に大きいのです。距離は関係ありません。足の不自由な方にとっては特に有効な診療手段です。

人 interview

横浜エデンの園の
進化する医療

見守りシステムのデータを共有 介護の最先端を目指す園だから

実際に横浜エデンの園とのオンライン診療をスタートして感心したのは、最新技術を駆使した取組です。診療を行う際、患者さんの詳細な生活状況を把握できると良いのですが、部屋のセンサーで動きがわかる見守りシステムのデータは、より適切な診断を行うためにとても役立っています。その他にもITやAIを活用した取組をしており、既成概念にとらわれず常に新しいことに挑戦し、介護の質を向上していこうという姿勢を感じます。

患者さんと意思疎通する工夫 欠かせない職員の育成と協力

オンライン診療で特に気をつけているのは、患者さんとのコミュニケーションです。ビデオ通話に慣れていない方が多く、まずは簡単に「はい」や「いいえ」で答えられる質問から始め、徐々に話す内容を深めていきます。言葉が被らないように間を空けるのもポイントです。診察前には排尿に関する評価シートを記入いただき、スマホで撮影した写真を送ってもらいます。ここで大事になるのが、職員の皆さんのオンライン診療をサポートする姿勢。横浜エデンの園は新たな診療への理解が早く、職員の育成にも力を入れており、とても協力的です。最終的には、ご入居者本人が自力でオンライン診療を受診できるようになればと思います。

夜間排尿時に多い骨折 正常な排尿が健康寿命を延ばす

75歳以上の95%以上が排尿に関する不安を抱えており、特に高齢者に多いのが夜間排尿に伴う骨折です。昼間は普通にできても、夜は寝ぼけてつまずいたり、座ろうとして尻もちをついたりします。骨折から入院し、認知症が進行する例も少なくありません。更に骨折のリスクが高まる負の連鎖です。私の著書「丈夫で長生き 排尿から考える長寿の秘訣」の中でも説いていますが、排尿を適切にコントロールすることが骨折を防ぎ、健康で長生きできることにつながります。

排尿予測デバイス「D Free」 横浜エデンの園でも試験運用を開始

当科では、患者さんの排尿誘導や排尿の自立を支援する排尿予測デバイス「D Free」を導入しています。下腹部に装着することで、膀胱内の尿のたまり具合、排尿パターンをリアルタイムで把握できる機器です。「D Free」のDはDiapers、英語で「おむつ」の意味。排尿タイミングがわかり、おむつが不要になるように開発されました。横浜エデンの園でもいち早く賛同いただき、試験運用を開始しています。ご入居者にとってメリットのあることは、まずやってみる。最新機器の導入に意欲的な施設だと思います。

診療全体の質が向上 医療側にも大きなメリット

患者さんにとって利点の大きなオンライン診療ですが、実は医療側にも大きなメリットがあります。それは、対面とオンラインの棲み分けによる診療全体の質の向上です。軽症の患者さんをオンラインで診ることで、本当に対面診療が必要な患者さんに多くの時間を割くことができ、重症な患者さんの待ち時間を減らすこともできます。厚生労働省も、オンライン診療を通じて医療の質を向上させるよう私たちに求めています。

健康維持の手段として 進化するオンライン診療

オンライン診療が特に力を発揮するのは、健康維持の手段、ヘルスケアの分野です。人生100年時代と言われていますが、寿命が100年でも最後の10年が寝たきりでは意味がありません。健康寿命を100年にするため、オンライン診療は極めて重要です。「D Free」をはじめ、オンライン診療を促進する機器や環境は、ここ10年で急速に進化しています。受診の負担を軽減し、疾病の早期発見を促し、専門医師から健康維持の的確なアドバイスを受けられるオンライン診療。現在、聖隷横浜病院で行っているのは泌尿器科のみですが、今後更に広げていく予定です。

第四の診療体系から オンライン診療中心の時代へ

対面での外来診療、入院診療、訪問診療に次ぐ、第四の診療体系と言われるオンライン診療ですが、今後は外来や訪問の補完だけでなく、診療の軸足が対面からオンラインに移っていくと思います。健康診断や人間ドックの一部もオンラインに移行し、薬がオンラインで処方され、がん検診もキットを使って送る時代です。オンラインで診察できないものは対面へ。将来的には、全ての診療科の半分以上がオンラインに移行していくと私は考えています。

高齢者のニーズに応えたい 他のエデンの園との連携も進行中

私たち医療に携わる者にとって大切なのは、時代に適応し、従来の診療に新しいものを取り入れ、患者さんのニーズに応えていくことです。特に高齢化が進む日本では、高齢者が何を求めているのかを的確につかむ必要があります。泌尿器科に30年以上携わり、「排泄は自分でやりたい。おむつや人の世話になりたくない」という多くの声を聞いてきました。健康志向が高い方には特に顕著なニーズです。

正常な排尿のコントロールが健康維持には欠かせません。エデンの園は聖隷横浜病院と同じ経営母体であり、ご入居者の健康維持は我々としても優先すべき課題です。現在、藤沢エデンの園、油壺エデンの園と泌尿器科のオンライン診療に向けて連携を進めています。オンライン診療に距離は関係ありません。今後は神奈川県外にも拡大し、全国のエデンの園のご入居者の健康維持に寄与できたら幸いです。

横浜エデンの園

進化する介護

オンライン診療をスタートした横浜エデンの園では、
その他にもデジタル機器やシステムを駆使し、
より質の高い介護サービスを提供する取組を行っています。
その進化する介護について、職員のみなさんに話を聞きました。

服薬支援システム

投薬ミスを確実に防ぐ

ケアサービス課 看護師
千葉 浩美(ちば ひろみ) **檀原 幸江**(だんばら ゆきえ)

誰に、いつ、何の薬を飲ませるのか、介護事故の中で特に多いのが誤薬です。2024年の6月から「服薬支援システム」を導入し、目視の確認のみであった投薬を、飲む直前に職員が、薬とご入居者の二次元コードをスマートフォンでチェックすることが可能になりました。これにより「間違えたらどうしよう」という精神的負荷が無くなりました。また、投薬の内容はデータに残り、投薬漏れ、チェック漏れはアラートで知らせてくれます。健康に直接関わることでもあり、絶対に間違えてはいけないのが投薬。これまでもミスはありませんでしたが、より他の仕事に集中できるようになり、もう服薬支援システム無しの投薬は考えられません。

泡シャワー

お風呂が楽しい、気持ちいい!

ケアサービス課 介護士
上野 しのぶ(うえの しのぶ)

泡シャワーは、専用ボディソープとお湯と空気を混合し、シャワーヘッドから柔らかい石鹸泡を出す入浴介助製品。優しくなでるだけで体を洗え、ご入居者にとても好評です。週3回の泡シャワーが楽しみというご入居者は「とても気持ちよく、気になる部分を自分で洗えるのも嬉しい」と喜んでいます。洗い過ぎによる肌のダメージもなく、余分な脂を落とさないので乾燥肌を防ぐ効果もあり、介助する私たちも大満足です。

動画マニュアル作成ソフト

マニュアル動画で育成力アップ

ケアサービス課 介護士
菊地 美保(きくち みほ) **唐橋 琴羽**(からはし ことは)

動画マニュアル作成ソフトは、職員がスマートフォンでマニュアル動画を作成し、現場のノウハウを介護の内容別に確認できる教育システムです。それまでは紙のマニュアルを元に指導していましたが、動画を見れば一目瞭然。教える人のレベルにより、育成の差が出ることがなくなりました。伝わりにくい勘やコツも可視化でき、OJT※の効率化や標準化が進んでいます。

動画はとてもわかりやすく、いつでも基本に帰ることができるので助かります。最新のマニュアルをスマートフォンで簡単に確認できるので、とても便利です。

※OJT…実際の職務現場において業務を通して行う教育訓練のこと

勤務シフト自動作成サービス&予定管理

時間短縮とミスの軽減

ケアサービス課 係長
富安 章(とみやす あきら)

日々の記録やご入居者の情報を共有するETS※は以前から運用していましたが、新たに予定管理の機能が追加されました。元々は紙媒体で管理していたご入居者のケアプランをデータ化し、いつでもタブレットで確認できるようにしたものです。いつ、何のサービスを行うか、記憶に頼らない、より確実なケアが可能になりました。実施後はチェックするだけなので、記録する時間を短縮することもできます。

勤務シフト自動作成サービスは、AIが職員の勤務シフトを5秒で作成する優れものです。それまでは紙で出力したり、職場のパソコンで確認していたものが、最新のシフトを自分のスマートフォンで確認することもできます。

両方に共通するのは、ミスなく、より便利に、時間短縮することが職員の心に余裕を生んだことです。職員のストレスは時に不適切なケアにつながります。今後も積極的にITやAIの力を活用し、介護の質を進化させていきたいと思います。

※ETS…エデントータルシステム(エデンの園独自の管理システム)の略

見守りシステム

ご入居者の睡眠を改善

ケアサービス課 介護士
福田 雄二(ふくだ ゆうじ)

見守りシステムはベッドや居室などにセンサーを配置し、ご入居者の動きを介護スタッフに知らせるシステムです。監視カメラではないので、個人のプライバシーは保護されています。横浜エデンの園では2020年に試験運用を始め、2022年4月から全居室に導入しました。

運用して一番良かったのは、夜間、ご入居者との不必要な接触が減ったことです。導入前は2時間に1回、様子を見に訪室していたため、ご入居者を起こしてしまうこともあり、それはお互いにストレスとなっていました。ご家族の同意を得ながら訪室回数を減らすことで、ご入居者の睡眠改善につながり、入居時にはほとんど喋らなかった方から発語がみられるようになりました。朝の食事量も増え、体重が増えた時は本当に嬉しかったです。

ご入居者の情報が、正確なデータとして蓄積されるのも大きいです。例えば、トイレに行く頻度など、感覚的で曖昧だった事象が客観的な数字になり、泌尿器科の医師と共有することで適切な治療につながります。おむつ交換と睡眠の関係をデータから読み取り、おむつ自体を変えることで睡眠改善につながった事例もあります。

現在は、温湿度センサーとエアコン制御センサーの連動により、エアコン操作のための訪室を減らす取組を行っています。今後も見守りシステムを活用しながら、本当に必要な介護に集中できる、ご入居者にとってより安全・安心な環境を整えていきたいと思います。

介護は「想像と創造」

園長
小久保 ゆき
(こくぼ ゆき)

見守りシステムをはじめ、横浜エデンの園では様々な最新技術を介護の現場に活かしていますが、大切なのは使う側の創意工夫です。私は、介護は「想像と創造」の仕事だと思っています。どんな機械や仕組みを導入しても、ご入居者にとって嬉しい使い方を探りながら、こんな風に工夫してみようと想像しながら使わないと、単なる道具で終わってしまいます。

導入目的には業務の効率化もありますが、本来やるべき介護に集中するためでもあります。人にしかできない仕事、人よりも機械の方が得意な仕事を見極め、導入する仕組みを検討しています。人間がやることには限界があります。誤薬を防ぐ「服薬支援システム」は最たる例です。私は介護職出身なので、より現場に近い感覚で園全体の最適化を考えながら、ご入居者にとって満足度の高い施設を目指しています。

横浜エデンの園の職員は、新しい技術やシステムに積極的に取り組み、色々なアイデアを出してくれるので頼もしい限りです。エデンの園が有料老人ホームの先駆け的な存在として業界をリードしてきたように、横浜エデンの園は介護施設の先端を行く存在でありたいと思っています。ここで働く職員が、最先端の技術を活用できる力があることを自分の強みにし、高みを目指すことが、より質の高い介護につながると信じています。

ご入居者にとっても職員にとってもメリットのある仕組みは大歓迎。これからも新しいことに挑戦し続け、横浜エデンの園の介護の進化はまだまだ止まりません。